

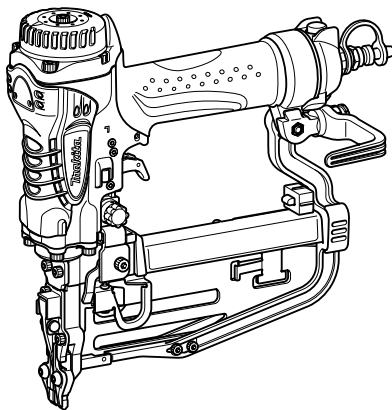
Makita

ヒューマンハードウェアのマキタ
人の暮らしとすまいのために……

取扱説明書

高圧フロアタッカ

モデル AT450HA



このたびは**高圧フロアタッカ**をお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。
ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本機の性能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただき、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願い致します。
なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。



目次

・ 主要機能	-----3
・ 安全上のご注意	-----4
・ 各部の名称および標準付属品	-----7
・ 別販売品のご紹介	-----8
・ 使い方	-----10
・ ご使用前の確認	-----10
・ コンプレッサの選定について	-----11
・ エアホースの選定について	-----11
・ ステープルの入れ方	-----12
・ ステープルの抜き取り方	-----13
・ 空打ち防止機構について	-----13
・ 単発・連続打ちの切替機構	-----14
・ トリガロックの操作方法	-----15
・ アジャスタ（打込み深さ調整）の操作方法	-----16
・ フックの使い方	-----17
・ 排気の方向について	-----17
・ エアダスタの使い方	-----18
・ 平打ち用ノーズアダプタの使い方	-----19
・ フローリング作業	-----19
・ ステープル詰まりの直し方	-----20
・ 保守・点検について	-----21
・ 本機のお手入れ	-----22
・ ご修理の際は	-----22

主要機能

主要機能	モデル	AT450HA
使用空気圧力		0.98 ~ 2.26MPa (10 ~ 23kgf/cm ²)
使用ステーブル		MA 線 幅 4mm × 長さ 25 ~ 50mm
ステーブル装てん数		1 連 84 本 最大 105 本
質量		1.5kg
本機寸法 (フック無し)		長さ 275mm × 幅 62mm × 高さ 271mm
使用エアホース		マキタ高圧用エアホース 内径 φ4.0mm 以上

- 改良のため、主要機能および形状などは変更する場合がありますので、ご了承ください。

注意文の **⚠ 警告** ・ **⚠ 注意** ・ **注** の意味について

ご使用上の注意事項は **⚠ 警告** と **⚠ 注意** ・ **注** に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

⚠ 警告

： 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠ 注意

： 誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、**⚠ 注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注

： 製品および付属品の取り扱い等に関する重要なご注意。

安全上のご注意

JPB148-2

- ・ 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ・ ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- ・ お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
- ・ 他の人に貸し出す場合は、いっしょに取扱説明書もお渡してください。

⚠ 警告

1. ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。
 - ・ 本機の取り扱い知識が不十分な場合、事故の原因になります。
2. 次のときは、本機を使用しないでください。
 - ・ 事故の原因になります。
 - 疲れているとき、身体が不調なとき。
 - 酒類や菓物を飲んで正常な操作ができないとき。
3. 保護メガネ、耳栓を装着し、また作業環境に応じてヘルメットなども着用してステーブル打ち作業をしてください。
 - ・ 装着しないと打ち損じのステーブルで目などにけがをしたり、排気音で耳を痛める原因になります。
4. 揮発性可燃物（ガソリン・シンナーなど）の近くでは使用しないでください。
 - ・ ステーブルを打ち込むときの火花で火災を起こす恐れがあります。
5. ステーブル打ち作業以外の用途には使用しないでください。
 - ・ 事故の原因になります。
6. 本機に刻印や溶接等の改造をしないでください。
 - ・ 外枠が破損し、けがの原因になります。
7. 動力源は圧縮空気を使用してください。
 - ・ 圧縮空気以外のガス（プロパン、アセチレン、酸素など）を用いると爆発する恐れがあります。
8. 圧縮空気の圧力は銘板に記載の範囲内で使用してください。
 - ・ 高過ぎる圧力は、損傷による事故の原因になります。
9. エアホースをつなぐときは、トリガに指をかけないでください。
 - ・ 誤って発射された場合に事故の原因になります。
10. 必ず射出口を確実に材料に当ててトリガを引いてください。
 - ・ 誤って発射した場合に事故の原因になります。
11. トリガに指をかけたまま持ち運んだり、手渡しなどをしないでください。射出口を人に向けたり、手足を射出口付近に近づけたりしないでください。
 - ・ 誤って発射した場合に事故の原因になります。

⚠ 警告

12. 次の場合は、本機からエアホースをはずしてください。

- ・ 誤って本機が作動すると事故の原因になります。
 - 修理する場合。
 - ステーブルを装てんする場合、また取り出す場合。
 - 作業中、本機を持って移動する場合。
 - 点検整備をする場合。
 - その他事故が予想される場合。

13. 足場を使って作業する場合、常に足場をしっかりとらせ、バランスが保てる姿勢で作業してください。

- ・ 足場が不安定だと事故の原因になります。

14. 屋根などで作業をするときは、前進しながら打つようにしてください。

- ・ 後退しながら打つと足を踏みはずし、事故の原因になります。

15. 近くに人がいないことを確認してから作業を始めてください。

- ・ 打ち損じのステーブルなどがあたりけがをする原因となります。

16. 壁の内、外側からの同時作業はしないでください。

- ・ ステーブルが突き抜けたりそれたりしたとき、事故の原因になります。

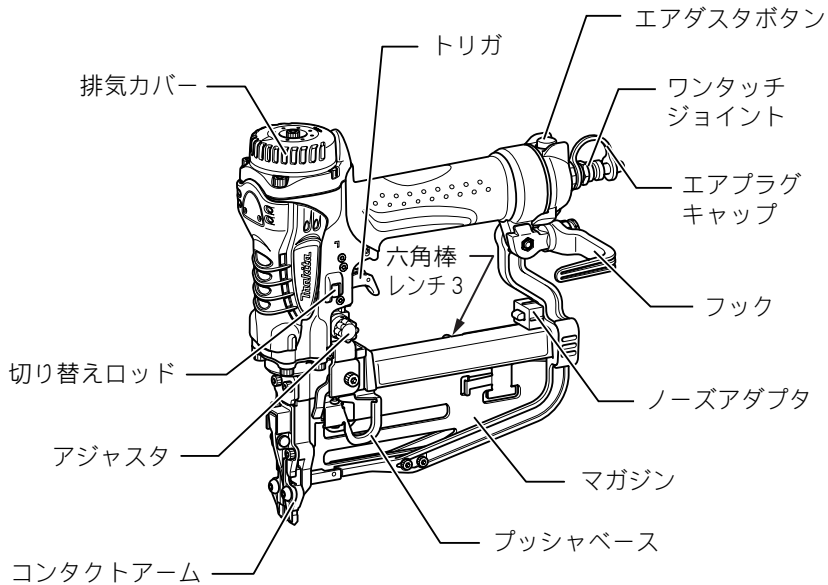
17. 高所での作業のときは、ホースの固定箇所を設けてください。

- ・ 不意に引っ張られたり、引っかかったりしたとき、事故の原因になります。

⚠ 注意

1. 裾や袖の締まりのよい服装をしてください。
 - ・ 袖口や裾の開いた衣服などで作業しますと、事故の原因になります。
2. 作業場は、いつも明るくきれいにしてください。
 - ・ 暗かったり、ちらかったところでの作業は事故の原因になります。
3. 使用前に、部品が損傷していないか、ボルトがゆるんでいないかを点検してください。
 - ・ 不完全な本機を使用すると、事故の原因になります。
4. 作業中は、本機に顔などを近づけないでください。
 - ・ ステープルの上や木の節などに当たった場合、本機が大きく反動し、けがをする原因になります。
5. 作業する箇所に電線管やガス管などの埋設物がないことを確かめてください。
 - ・ 埋設物を損傷すると感電やガス漏れ事故の原因になります。
6. 作業中に本機の調子が悪くなったり、異常に気づいた場合には、ただちに使用を中止してください。
 - ・ そのまま使用していると事故の原因になります。
7. 本機およびコンプレッサは、空気充てんのまま長時間直射日光に当てて放置しないでください。
 - ・ 本機及びタンク内の高圧の空気がさらに高圧になり、事故の原因になります。
8. 本機の握り部は常に乾かしてきれいな状態を保ってください。
 - ・ 握り部が滑りやすいとけがの原因になります。
9. いつも安全に能率よくご使用いただくために、定期点検をおすすめします。点検修理は、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業所にお申し付けください。
 - ・ 修理の知識や技術のない人が修理しますと、事故の原因となります。

各部の名称および標準付属品



標準付属品

- ・ ノーズアダプタ (平打用)
- ・ 油サシ (タービン油 JIS2 種 ISO VG32)
- ・ セーフティゴーグル (保護メガネ)
- ・ 六角棒レンチ 3 (本機取付)
- ・ プラスチックケース

別販売品のご紹介

- ・ 別販売品の詳細につきましてはカタログを参照していただくか、お買い上げ販売店もしくは、当社営業所へお問い合わせください。
- ・ 高圧ホース

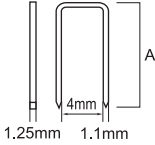
種類	ホース径 (外径×内径 mm)	長さ	部品番号
高圧スリック スリムホース	8 × 4	10m	A-51736
		15m	A-51742
		20m	A-51758
高圧スリック ホース	10 × 6	10m	A-46280
		20m	A-46296
		30m	A-46305
高圧用エアホース	9 × 5.3	20m	A-41654
		30m	A-41660

- ・ 高圧エアホースリール (6-30m)
部品番号 A-46333
- ・ 高圧タフリール (6-30m)
部品番号 A-49220
- ・ スプレーオイル
部品番号 A-46121



別販売品のご紹介

- ・ MA 線フローリングステーブル

種類	ステーブル (幅 4mm)				
材質	鉄				
形状					
A (長さ) mm	25	32	38	45	50
部品番号	F-81547	F-81550	F-81563	F-81576	F-81589
形式	425MAF	432MAF	438MAF	445MAF	450MAF
連結本数	84 本				
1 ケース入数	3024 本				

使い方

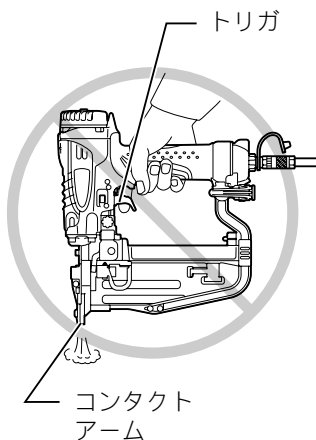
ご使用前の確認

⚠ 警告

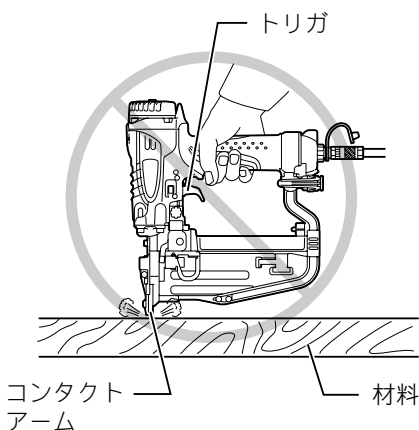
安全装置に異常がある場合は使用しないでください。

- ・ そのまま使用すると事故の原因になります。異常があるときはお買い上げの販売店または当社営業所にお申し付けください。
 - ・ 本機はトリガとコンタクトアームの両方を作動させないとステープルが発射されない構造になっています。ステープルを打つ作業に入る前に安全装置に異常がないかを下記の手順で確認してください。
1. 作業にはいる前に本機にステープルが装てんされていないことを確認してください。
 2. 切替ロッドを「FREE」の位置にしてください。(P 15「トリガロックの操作方法」参照)
 3. 本機にエアホースを接続します。
 4. まずトリガだけを引いてください。次にトリガから指を離しコンタクトアームを材料に押し当ててください。
 5. 上記 4 の操作で本機が作動する場合は安全装置が異常です。

- ・ トリガだけを引いて作動する場合



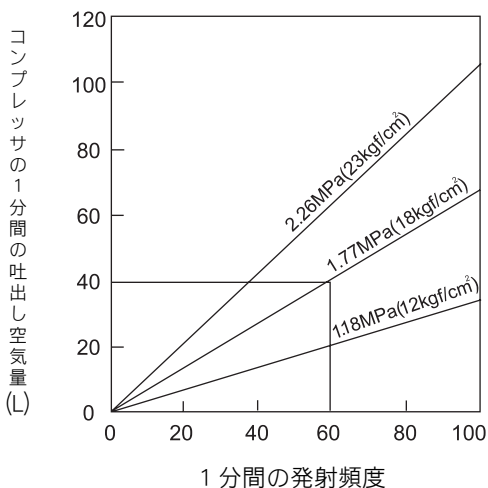
- ・ トリガから指を離し、コンタクトアームを押し当てると作動する場合



使い方

コンプレッサの選定について

- ・ 本機を能率よく使用されるために、コンプレッサの最高圧力と吐出し空気量は余裕のあるものを使用してください。コンプレッサを選定される時は図を参考にしてください。
- ・ 図は本機での発射頻度、使用圧力とコンプレッサの吐出し量の関係を示します。たとえば、使用圧力が $1.77\text{MPa}(18\text{kgf}/\text{cm}^2)$ で発射頻度が 1 分間に約 60 回ですと、吐出し空気量 $40\text{L}/\text{min}$ 以上のコンプレッサが必要です。



エアホースの選定について

⚠ 警告

本機は使用圧力を一般圧のタッカより高く設定しています。高圧用のエアホースを使用してください。

- ・ 連続作業を効率よく行うためにエアホースは太く短い物を使用してください。
※内径 $\phi 5\text{mm}$ 以上、長さ 30m 以下のエアホースを使用する事を目安に選定してください。

注

- ・ ステーブルの発射頻度にくらべエアコンプレッサの吐出量が少ない場合や、エアホースの内径が細いか、長さが長すぎる場合は、打ち込み力が低下します。

使い方

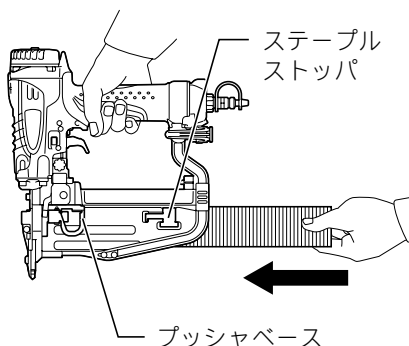
ステープルの入れ方

⚠ 警告

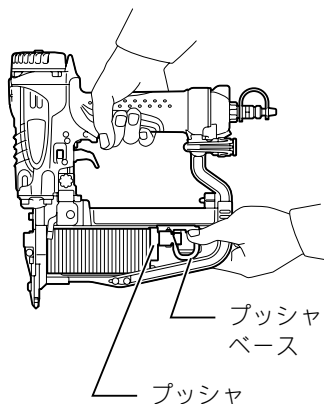
ステープルを装てんする際は、必ずトリガをロックしてエアホースをはずしてください。

・ 誤って本機が作動すると、事故の原因になります。

- ・ トリガをロックして（P 15「トリガロックの操作方法」参照）、エアホースをはずします。
- ・ ステープルをマガジン後方からステープルストッパを超える位置まで入れます。ステープルは1連（84本）入ります。



- ・ プッシャベースをマガジン最後方まで引っ張り、静かに戻します。



注

- ・ プッシャベースを戻す際、プッシャを押したまま行くとステープルがセットしません。装てんはプッシャを押さずに行ってください。
- ・ プッシャベースを急に放すとプッシャが急激に戻りステープルが変形したり、ばらばらになりステープル詰まりの原因となります。プッシャベースは静かに戻してください。

使い方

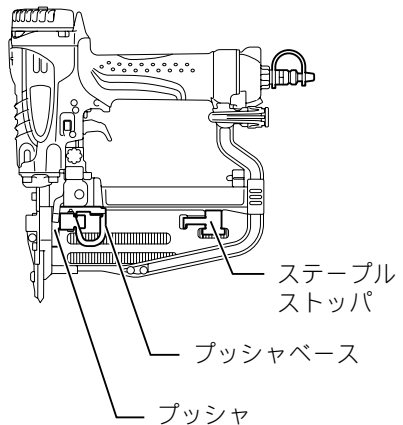
ステーブルの抜き取り方

⚠ 警告

ステーブルを抜き取る際は、必ずトリガをロックしてホースをはずしてください。

・ 誤って本機が作動すると、事故の原因になります。

- ・ トリガをロックして（P 15「トリガロックの操作方法」参照）、エアホースをはずします。
- ・ マガジン後方を下にして、プッシャベースを少し引きながら左右のプッシャを押してステーブルを開放します。プッシャベースは静かに前方へ戻してください。
- ・ ステーブルストッパを押してマガジン後方よりステーブルを抜き取ってください。



空打ち防止機構について

- ・ 本機には空打ち防止機構が装備されています。ステーブルの残りが約5本になりますと打てなくなります。続けてお使いになる場合はステーブルを補充してください。

使い方

単発・連続打ちの切替機構

「単発打ち」方法

- ・ 単発打ちとは、打ち込み対象物にコンタクトアームを押し当て、トリガを引く操作でステーブルを1本ずつ打つことができます。主に仕上げを重視する場合や狙った所に打つ場合に適しています。
- ・ 切替ロッドを「FREE」の位置にします。
 - ①打ち込み対象物にコンタクトアームを押し当てます。
 - ②トリガを引きます。

「連続打ち」方法

- ・ 連続打ちとは、トリガを引いたまま打ち込み対象物にコンタクトアームを押し当てる操作を繰り返すことで、連続的にステーブルを打つことができます。主に床、壁、屋根などの下地打ちの場合に適しています。
- ・ 切替ロッドを「FREE」の位置にします。
 - ①トリガを引きます。
 - ②トリガを引いたまま打ち込み対象物にコンタクトアームを押し当てれば、連続打ちができます。

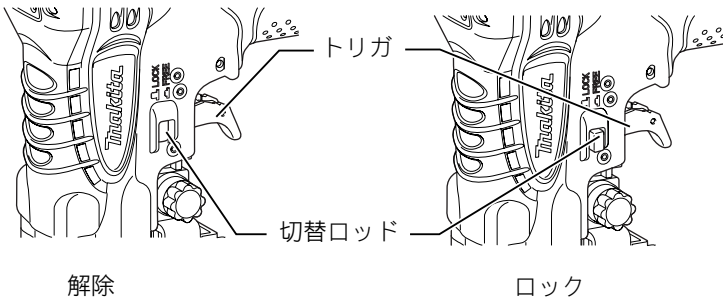
注

- ・ 単発打ちでトリガを引いたまま、再度コンタクトアームを打ち込み対象物に押し当ててもステーブルは発射されません。続けて連続打ちする場合は、トリガから指をいったん離してから連続打ちの操作を行ってください。

使い方

トリガロックの操作方法

- ・ 本機にはステーブル打ち作業をしていないとき、誤った操作による事故を防ぐために、トリガロック機構を装備しています。トリガロックとは、トリガを引けなく（ロック）し、発射しない状態にする機構です。
- ・ 切替ロッドを「LOCK」の位置にすると、トリガが引けなく（ロック）なります。
- ・ ステーブルを打つときは、切替ロッドを「FREE」の位置にしてください。トリガロックが解除されます。作業時以外はトリガをロックして、エアホースをはずしてください。



使い方

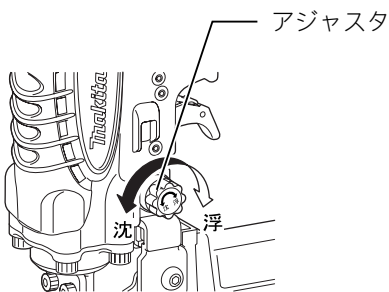
アジャスタ（打込み深さ調整）の操作方法

⚠ 警告

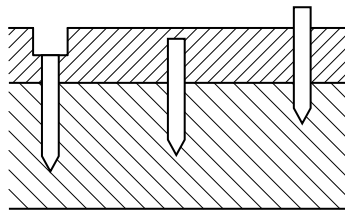
打込み調整の際は、必ずトリガロックをして、エアホースをはずしてください。

・ 誤って本機が作動すると、事故の原因になります。

- ・ 本機はステーブルの打込み深さを調整する、アジャスタ機構を装備しています。
- ・ アジャスタを回転させて、打込み深さを調整してください。打込み調整幅は3 mmです。（1回転で約0.8 mmの調整ができます。）



沈みすぎ (浮側へ回す) 適正 浮きすぎ (沈側へ回す)



使い方

フックの使い方

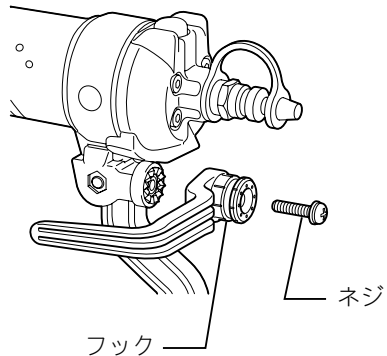
⚠ 警告

フックの位置を変える場合や、使用の際は必ずトリガロックをして、エアホースをはずしてください。

フックを腰のベルトなどにかけないでください。

- ・ フックがはずれて本機が落下した場合、誤作動する恐れがあり、事故の原因になります。

- ・ フックは本機を一時引っかけておくのに便利です。
- ・ 本機は、フックの取付位置を変更できません。
- ・ フックを取り付けているネジをはずし、フックの位置を変更して、ネジを締め直してください。



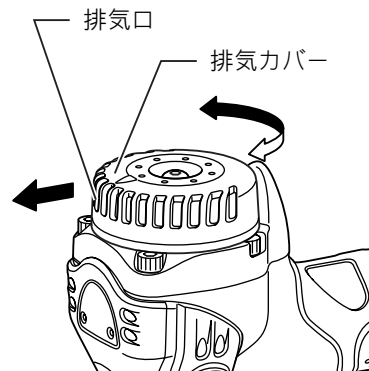
排気方向について

⚠ 警告

排気方向を変える場合は、必ずトリガをロックして、エアホースをはずしてください。

- ・ 誤って本機が作動すると、事故の原因になります。

- ・ 排気方向は排気カバーを回すことにより360度の範囲で変えることができます。



使い方

エアダスタの使い方

⚠ 警告

エアダスタを使用する時は必ずトリガをロックしてください。

エアダスタ吹出口を人に向けたり、手足を吹出口付近に近づけたりしないでください。

・ 誤って吹き出した場合、事故の原因になります。

近くに人がいないことを確認してから使用してください。

・ 吹き飛ばしたホコリや木屑などがあたりケガをする原因になります。

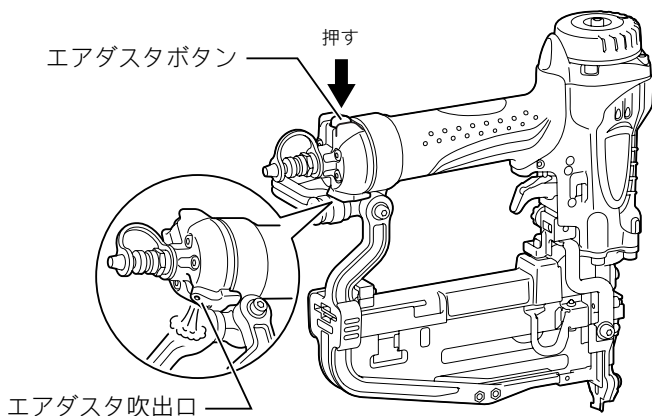
エアダスタボタンを押したまま、エアホースをつないだり、はずしたりしないでください。

・ エアダスタを使用すると一時的に打ち込み力が低下する場合があります。

エアコンプレッサの圧力が回復してから作業を始めてください。

注油直後にエアダスタを使用すると、オイルがエアダスタ吹出口より霧状に飛び散る場合があります。油がかかっても支障のない所で試してから作業してください。

・ エアダスタを使用すれば、ホコリや木屑を吹き飛ばすことができます。



使い方

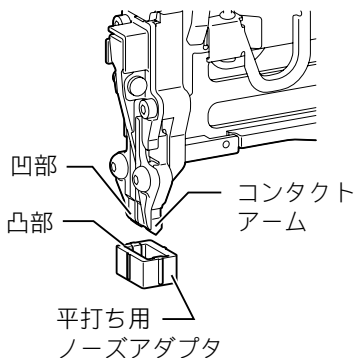
平打ち用ノーズアダプタの使い方

⚠ 警告

平打ち用ノーズアダプタ取り付け・取りはずしの際は必ずトリガをロックし本機からエアホースをはずしてください。

・ 誤って本機が作動すると事故の原因になります。

- ・ 平打ち作業をする場合、コンタクトアームに平打ち用ノーズアダプタを取り付けます。
- ・ ノーズアダプタの凸部がコンタクトアームの凹部に合うように差し込みます。



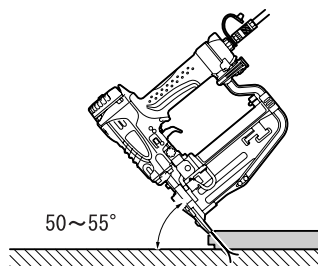
フローリング作業

⚠ 注意

本機を寝かしすぎるとフロア材の表面に膨らみが、また立てすぎると実（さね）の壊れが発生しやすくなります。

本角度にて施工をしても諸条件により、膨らみや実（さね）の壊れが発生する場合がありますので、試し打ちをして確認の上、ご使用ください。

- ・ フローリング作業のように狙った所にステープルを打つ場合は、単発打ちで作業してください。
- ・ 本機の角度を図のように $50 \sim 55^\circ$ に傾けて打ち込むようにしてください。



使い方

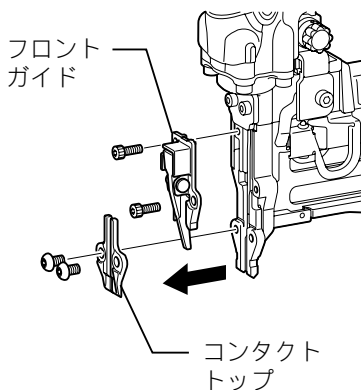
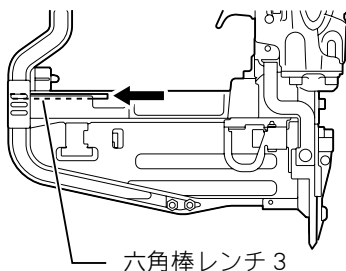
ステーブル詰まりの直し方

⚠ 警告

作業に入る前にトリガをロックし、本機からエアホースをはずしてください。

・ 誤って本機が作動すると、事故の原因になります。

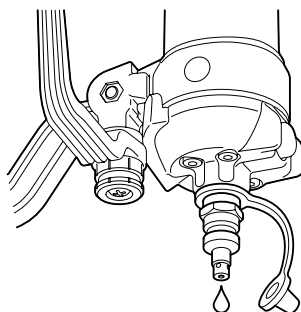
- ・ 作業に入る前にトリガをロックしエアホースがはずしてあることを確認してください。
- ・ マガジン後方を下にして、プッシャベースを少し引きながら左右のプッシャを押してステーブルを開放します。プッシャベースは静かに前方へ戻してください。
- ・ ステーブルストoppaを押してマガジン後方よりステーブルを抜き取ってください。
- ・ マガジンカバー内の六角棒レンチ3収納部から六角棒レンチ3を前方から押して取りはずします。
- ・ コンタクトトップを固定している2本のネジを六角棒レンチ3で取りはずしてください。
- ・ ステーブルの案内溝が露出するので、詰まったステーブルを取り除いてください。
- ・ 詰まったステーブルが取り除けない場合、さらにフロントガイドを固定している2本のネジを六角棒レンチ3で取りはずし、詰まったステーブルを取り除きます。



保守・点検について

①水抜きを行う

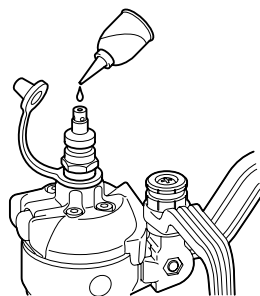
本機のエアプラグをしばらく下に向け、本機内部に残っている水分をできるだけ除去してください。



②オイルを注油する

本機に付属している油サシ（タービン油 JIS 2 種 ISOVG32）を使用前、使用后 2 ～ 3 滴（約 1 cc）エアプラグより注油してください。

指定外のオイルを使用すると、故障の原因となります。

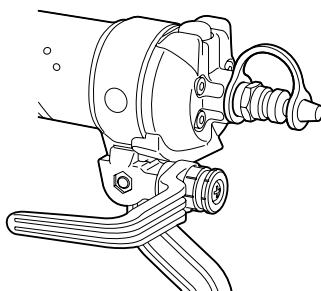


③本機の清掃

本機が、埃・木屑・砂などで汚れている場合は、エアダスタで清掃してください。

④エアプラグキャップの使用

本機を使用しない時は、本機内部に異物（ゴミ・埃）が入らないように、エアプラグキャップを装着してください。



⑤作業後の保管

プラスチックケースに収納し、直射日光の当たらない場所に保管してください。

保守・点検について

本機のお手入れ

- ・ 乾いた布か石けん水を付けた布できれいに拭いてください。

注

- ・ ガソリン、ベンジン、シンナー、アルコール等は変色、変形、ひび割れの原因となりますので使用しないでください。

ご修理の際は

- ・ 修理はご自分でなさないで、必ずお買い上げの販売店または当社営業所にお申し付けください。

882557-1

株式会社マキタ

愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502

TEL.0566-98-1711 (代表)